

日総工産株式会社

【2021年3月期第3四半期決算説明主な質疑応答】

2021年2月10日発表

当内容は発表後にいただいた質問より、主な質疑応答を記載しております。また、ご理解いただきやすいように一部加筆、修正をしております。

Q1:業績が回復している大きな要因は何ですか。

A1:コロナの影響が落ち着き、稼働調整がほぼ無くなったことに加え、第3四半期に入り稼働が増加いたしました。また人材ニーズの回復および離職率が改善したことにより在籍が増加に転じたことなどが事由として挙げられます。

Q2:一人当たり売上高が増加している要因は何ですか。

A2:第3四半期に入り、稼働が増加いたしましたが、具体的には、10月以降、休出・残業が増加いたしました。第2四半期単体(18.9時間/月平均)と比較し、第3四半期単体では、全体で一人当たり月平均23.2時間(+4.3時間/月平均)に増加いたしました。このような理由により、一人当たり売上高が増加いたしました。

Q3:具体的にどのような業種が増産・増員に転じているのですか。

A3:主に自動車関連で、増産・増員に転じるメーカーが増えております。特にボデーメーカーでは、国内外での需要回復から、第3四半期に入り人材ニーズが、想定より早く回復いたしました。電子デバイスについても、在庫調整が落ち着きつつあり、車載関係では増産に転じたメーカーも増えております。半導体関連の人材ニーズも堅調に推移しております。さらにアカウント企業を中心にシェア拡大に取り組んでおり、あらたな増員も計画されております。今後も自動車関連、電子デバイス関連で、人材ニーズが引き続き増加していくと見込んでおります。

Q4:今後の見通しについて教えてください。

A4:新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響が懸念されるものの、製造関連については、今後も回復基調が継続すると予測されます。また、5Gや働き方の変化によるあらたなIT需要が創出されるなど、業種によっては、前期を上回るニーズが期待されるものもあり、第4四半期以降も自動車関連、電子デバイス関連は順調に推移すると思われれます。

Q5:その他の事業は今期黒字化になるのですか。

A5:6号館(すいとぴー東戸塚)の入居状況につきましては、順調に増加しており、定員94名に対して2020年12月末現在では90名の入居者数となっております。このことから、第3四半期単体では黒字化しており、営業損失は改善傾向にあります。今後も、安定した入居者数の維持および業務の効率化を図ることで、継続して利益が出せるものと見込んでおります。

Q6:株式会社クロスリンクとの資本業務提携の目的は何ですか。

A6:8社(当社と同業7社)が共同出資する株式会社クロスリンクが開発・提供する人材に関わる業務をオンラインで一元管理できるシステム(HRクロス)を導入することで、人材派遣会社を利用しているメーカーが抱える事務処理等の業務の煩わしさの改善および業務の効率化を実現したいと考えています。また同一労働同一賃金のルールに従った人材の評価システムの構築により、メーカーが安心して利用できる製造系人材サービスのスタンダードシステムとして広めていくことを目的としております。

以上